

全農提供ラジオ番組のご紹介

あぐりずむ
ニッポン **いただきます紀行**<https://www.tfm.co.jp/itadakimasu/>

- 放送日：毎週木曜日 6:15～6:25 (広島FM)
- パーソナリティ：川瀬良子さん



農業部

<https://www.tfm.co.jp/lock/nohgyou/>

- 放送日：毎週木曜日 23:00～23:06 (広島FM)
- パーソナリティ：的場華鈴さん
大和明桜さん

ZEN-NOH
COUNTDOWN JAPAN<https://www.tfm.co.jp/cdj/>

- 放送日：毎週土曜日 13:00～13:55生放送 (広島FM)
- パーソナリティ：ジョージ・ウィリアムズさん
安田レイさん

～全国FM38局で放送中～

JAグループ広島

JA全農ひろしまホームページ

<https://www.zennoh.or.jp/hr/>

JA全農ひろしま 営農情報LINE



JA全農ひろしま

JAグループ広島 営農通信

2022年
春号▲ばれいしょ収穫機の実演
(令和3年度 JAグループ
担い手アグリサミットにて)

◆ 米穀情報

- ①米の需給動向
- ②令和4年産米等の作付意向(令和4年1月末時点)
- ③JAグループ広島の「契約取引の拡大」に向けた取り組み

◆ 園芸情報

- ①効率的な物流に対応した出荷資材の検討
- ②青果物の販売経過および情勢

◆ TOPICS

- 環境制御システム普及プロジェクト ～「光合成促進機」～

◆ 営農支援情報

- スマート農業の取り組み紹介

◆ 肥料・農薬情報

- ①水稻育苗の病害虫防除について
- ②水稻育苗の基本について

◆ 農業機械情報

- 共同購入トラクタ(中型・33馬力)の購入生産者インタビュー ～第4弾～

米穀情報

① 米の需給動向

農林水産省の需給見通しでは、令和3年産生産量や需要量の見通しを踏まえた令和4年6月末民間在庫量は213～217万トンと見込まれ、4年産の適正生産量は675万トンとされています。これは、令和3年産が平年作(作況指数100)であった場合(696万トン)から21万トンの減産が必要な水準であり、全国的には令和3年産に引き続き大規模な作付け転換が必要な状況となっています。

【主食用米等の需給見通し(農林水産省の資料を基に作成)】

国の需給見通し(11/19食糧部会)			
令和3/4年	令和3年6月末民間在庫量	A	218
	令和3年産主食用米等生産量	B	701
	令和3/4年主食用米等供給量計	C=A+B	919
	令和3/4年主食用米等需要量	D	702～706
	令和4年6月末民間在庫量	E=C-D	213～217
令和4/5年	令和4年産主食用米等生産量	F	675
	令和4/5年主食用米等供給量計	G=E+F	888～892
	令和4/5年主食用米等需要量	H	692
	令和5年6月末民間在庫量	I=G-H	196～200

平年作(作況100)の場合

696

▲21万トン (▲3.9万ha)

(注1) 主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和と特別対策(特別枠)の販売・提供動向等によって、今後、変動する可能性がある。

出典:米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針(令和3年11月)(農水省)を基に作成

(注1) 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

② 令和4年産米等の作付意向(令和4年1月末時点)

農林水産省が公表した「令和4年産米等の作付意向(第1回中間的取組状況)」によると、主食用米の作付意向は令和3年産実績との比較で前年並み傾向が25県、減少傾向が22県となった。需給安定に必要な前年実績比3%を超える減少率を見込むのは7県域に留まっており、需要に応じた生産の実現には、より一層の作付け転換の推進が必要な状況となっています。

【令和4年産米等の作付意向(前年実績との比較、令和4年1月末時点)(農林水産省の資料を基に作成)】

	主食用米		加工用米	飼料用米	米粉用米	新市場開拓用米	WCS	麦	大豆	備蓄米
前年より増加傾向	0県		16県	32県	22県	20県	17県	24県	24県	7県
前年並み傾向	25県		21県	13県	18県	11県	26県	12県	13県	18県
前年より減少傾向	22県	1～3%	15県	7県	0県	5県	7県	2県	9県	8県
		3～5%	3県							
		5%超	4県							

【参考】広島県を抜粋

広島県	主食用米	加工用米	飼料用米	米粉用米	新市場開拓用米	WCS	麦	大豆	備蓄米
	→	↑	↑	→	→	→	↑	↑	→

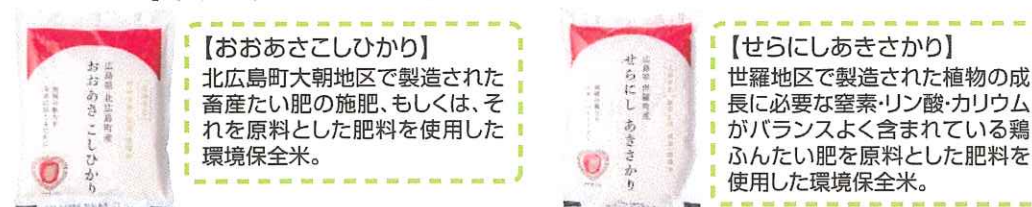
こうした先行き不透明な情勢にあって重要なことは“ひろしま米の契約販売先を維持確保すること”です。米の需給環境が不安定さを増すなか、販売先を明確にした契約取引の拡大が重要になります。

③ JAグループ広島の「契約取引の拡大」に向けた取り組み

(1) ひろしま米の価値向上につながる商品開発・販売展開

- 新しい価値観を創造・演出し、ひろしま米の付加価値向上や需要拡大に取り組みます。
- 品種や地域で水平展開することによりひろしま米ブランドを確立します。

【環境に配慮した取り組み:耕畜連携・資源循環ブランド3-R】



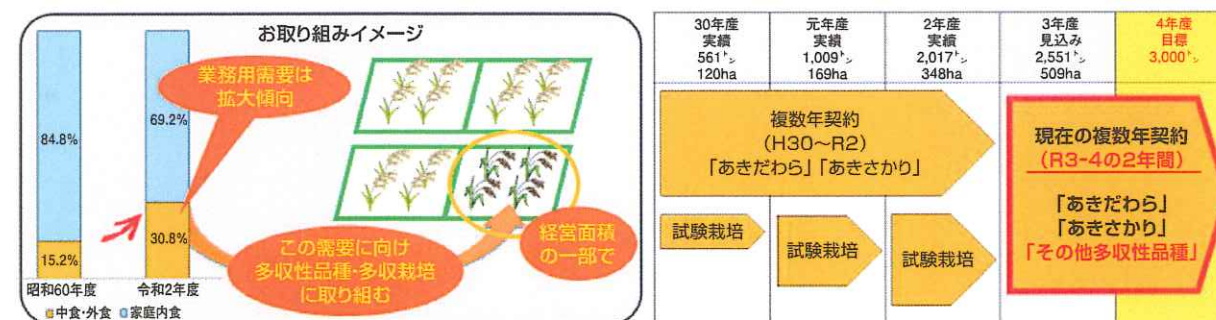
【品種や地域の特徴・歴史を引き出す:品種・地域ブランド】



(2) 業務用実需者との多収性品種による長期安定契約取引の拡大

- コロナ禍により業務用需要は伸び悩んでいるものの、安定取引(価格・数量・地域調達)を希望する実需者ニーズは存在します。
- 令和4年産では広島県内で3,000トンの契約枠を確保しています。

【契約栽培の取り組みイメージとこれまでの取り組み】



(3) 水田活用米穀(加工用米・飼料用米等)の県内中心の確実な需要への対応

- 加工用米は、県内酒造会社や全国大手冷凍米飯メーカーを中心に需要を1,470トン確保しています。
- 飼料用米は、県内養鶏業者の需要を1,600トン(玄米換算)確保しています。

■ JA全農ひろしまホームページ <https://www.zennoh.or.jp/hr/>
※トップページから、「米穀」とお進みください。

ひろしま米

検索

JA全農ひろしまは、今後も広島県内のお米や産地の魅力を発信していきます。

〈お問合せ先〉米穀総合課／塚本:TEL.082-431-5450
米穀販売課／山口:TEL.082-431-3000

園芸情報

① 効率的な物流に対応した出荷資材の検討

1. 取り組みの内容

青果物の物流の現状として、重労働であること・拘束時間の長期化が課題となっています。労働基準法の改正によって令和6年4月以降のトラックドライバーを取り巻く環境が変化していく中、現在の青果物の運送は手積み手降ろしなど手荷役作業が主体でパレット流通が普及していないため、ますます敬遠される可能性が高く、こうした物流の課題への対応が必要となっています。

これを受けて、JA全農と段ボールメーカーのレンゴー株式会社では、持続可能な生産・供給体制の構築を目指し、TMP(トレイ・モジュール化・プロジェクト)という新たな段ボールの利用に向けた取り組みを行っています。令和4年1月13日・14日にはJA尾道市と協力し、因島地区のブロッコリーにて検証試験を実施しました。

2. 新トレイのコンセプト

(1) T11パレット(1,100mm×1,100mm)に適合した寸法

⇒パレットへの積載効率を最大化

(2) スタッキング機能によりパレット積載時は棒積み(※)

(※) 同じ荷物を同じ向きで積み重ねることができます。

⇒段ボール箱の強度を最大限に発揮

(3) 天面が開いている

⇒内容物を入れやすい、テープ封緘が不要

(4) 店頭での開封作業が不要で、デザイン付き段ボール箱での陳列可能

⇒産地PR、店頭販促の向上、店舗での作業改善



3. 検証試験

今回の試験では、箱組みから商品の充填、パレットへの積み付け、予冷、出荷、出荷先での着荷に立会い、作業性のヒアリングや箱の強度確認を実施しました。検証結果は以下のとおりです。

(1) 箱の組立て

最初は天面が差し込み難いなど作業員の方々が不慣れな様子でしたが、数ケース箱組み後は作業に慣れ、箱の成形状態も良好でした。ただし、箱組み時間が約20秒/箱かかるため、作業性の改善が必要です。

(2) 箱や内容物の状態

箱詰め後、予冷後、そして着荷後の段ボール箱の潰れは確認されず、ブロッコリーを無事に因島から出荷先まで運搬することができました。

4. 今後の取り組み

今回の検証結果では、T11パレット上での積載効率の向上や箱の強度、箱デザインによる産地PRについて、産地及び量販店から高い評価を受けました。

一方で、箱組み作業性の改善が必要と考えられるため、引き続き「JAグループ、産地、レンゴー(株)」と連携しながら組立ての簡便化を図り、物流課題への対応に取り組めます。



② 青果物の販売経過および情勢

◆青果物 令和3年12月～令和4年2月までの販売経過

※金額は全て税抜

2021年(令和3年)12月から2022年(令和4年)2月にかけての天候は、12月下旬以降に強い寒気の影響を受けたため、気温が低くなりました。

また、日照時間は冬の間、低気圧の影響を受けにくかったため平年比110%と多くなりました。

そのような中、全農ひろしまの青果物の取り扱い(令和4年2月末累計)のうち、卸売市場仕向けについては、出荷重量11,235t(前年比95%)、単価は332円/kg(同97%)、販売金額約3,735百万円(同92%)と推移している状況です。

■全農ひろしまの販売状況(令和3年4月～令和4年2月累計)

	数量		金額		単価	
	(t)	前年比	(千円)	前年比	(円/kg)	前年比
野菜合計	11,235	95%	3,734,562	92%	332	97%
トマト	2,563	95%	796,402	92%	310	96%
青ねぎ	1,457	95%	768,807	87%	528	93%
アスパラガス	262	100%	303,920	102%	1,162	103%
ほうれんそう	551	111%	294,264	108%	534	97%
小松菜	991	87%	255,736	82%	258	95%
きゅうり	766	105%	185,230	96%	241	92%
わけぎ	241	92%	160,055	89%	663	97%
ミニとまと	137	84%	89,599	90%	653	108%
だいこん	1,110	85%	87,047	78%	78	92%
キャベツ	1,059	90%	67,315	85%	63	94%
その他葉茎菜類	174	112%	64,962	107%	373	96%
青梗菜	160	85%	50,869	84%	318	100%
豌豆	45	78%	49,040	94%	1,081	120%
なす	198	95%	48,225	77%	243	81%
ばれいしょ	326	124%	46,580	62%	142	49%
ジャンボピーマン	119	120%	30,724	87%	258	73%
その他	1,727	99%	761,831	97%	441	98%

※全農ひろしまの主要品目別市場出荷実績

〈お問合せ先〉園芸課／^{かん}神田: TEL.082-846-4708

◆ 2月単月の概況

【数 量】

○2月単月の出荷量は前年と比較して131トン減少し、前年比78%で推移しました。だいこん(76%)小松菜(54%)は量が減少しました。

○葉物野菜中心に寒さや雪の影響を受け、生育に遅れが生じ数量が減少しました。

○加温用燃料となる重油価格の上昇は施設栽培農家にとって深刻な問題となっています。このことにより、作型の見直しや温度調節を余儀なくされており、トマトやキュウリ等施設栽培作物の出荷量が減少しました。

【金額・単価】

○2月単月の単価については、わけぎ(115%)をはじめ、ほうれんそう(133%)小松菜(154%)が前年を上回り、その他の野菜についても平年並みもしくは前年を上回り、全体の平均単価は429円/kg、前年対比では120%で推移しました。

○2月単月の販売金額は、出荷量の減少によって200百万円(前年比93%)で終了しました。

○2月は野菜全般で出荷量が減り、前年と比べ単価が高く推移しました。

◆ 3月の見通し

(1) 入荷量の見通し

3月の指定野菜(15品目)の入荷量は、平年を下回る水準が込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、白ねぎの1品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、はくさい、ほうれんそう、青ねぎ、レタス、ピーマン、ばれいしょ、

さといも、たまねぎの9品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、にんじん、キャベツ、きゅうり、なす、トマトの5品目です。

(2) 卸売価格の見通し

3月の指定野菜(15品目)の卸売価格は、平年を上回る水準が込まれます。

「平年を上回る」と見込まれるのは、ほうれんそう、白ねぎ、ばれいしょ、さといも、たまねぎの5品目です。

「平年を下回る」と見込まれるのは、だいこん、にんじん、はくさい、キャベツの4品目です。

「平年並み」と見込まれるのは、青ねぎ、レタス、きゅうり、なす、トマト、ピーマンの6品目です。

○品目別の入荷量・卸売価格の見通し(3月)

品目	入 荷 量			卸 売 価 格			(参考)前年3月の主産地シェア(%)
	前月比較	前年比較	平年比較	前月比較	前年比較	平年比較	
だいこん	=	=	▲	=	=	▲	長崎(57)、福岡(20)、香川(8)、鹿児島(6)
にんじん	=	=	=	▲	▲	▲	鹿児島(33)、長崎(31)、熊本(18)
はくさい	▲	=	▲	▲	=	▲	長崎(75)、熊本(19)
キャベツ	▲	=	=	▲	▲	▲	愛知(35)、福岡(24)、熊本(11)、山口(9)
ほうれんそう	▲	▲	▲	▲	▲	▲	広島(79)、福岡(18)
青ねぎ	▲	=	▲	▲	▲	=	広島(64)、大分(12)
白ねぎ	▲	▲	▲	=	▲	▲	鳥取(65)、大分(21)
レタス	▲	▲	▲	▲	▲	=	長崎(46)、福岡(27)、香川(18)
きゅうり	▲	=	=	▲	=	=	宮崎(41)、佐賀(22)
なす	▲	▲	=	=	=	=	福岡(70)、佐賀(20)
トマト(ミニトマトを除く)	▲	=	=	=	=	=	熊本(44)、広島(23)、宮崎(16)、長崎(8)
ピーマン	▲	▲	▲	▲	▲	=	鹿児島(37)、宮崎(35)、高知(10)
ばれいしょ	▲	=	▲	▲	=	▲	鹿児島(64)、北海道(36)
さといも	▲	▲	▲	▲	▲	▲	愛媛(81)、宮崎(14)
たまねぎ	▲	▲	▲	=	▲	▲	北海道(75)、長崎(15)
計	▲	▲	▲	=	▲	▲	

注1:「平年」とは、過去5か年の平均値。

注2:この資料の内容は、令和4年2月22日現在で見込んだものであり、今後の気象条件の変化等により変動があり得る。

注3:主要野菜の入荷及び卸売価格の見通しのコメント及びグラフは令和4年2月28日 中国四国農政局生産部園芸特産課の発表内容による。

(参考)広島市中央卸売市場における品目別の入荷量の推移

品 目	12月上旬		12月中旬		12月下旬		1月上旬		1月中旬		1月下旬		2月上旬		2月中旬	
	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比	入荷量	平年比
だいこん	271	77%	301	90%	332	84%	169	87%	378	100%	351	82%	327	87%	236	70%
にんじん	233	87%	279	102%	266	104%	108	89%	275	110%	275	119%	252	113%	174	95%
はくさい	439	92%	420	86%	570	99%	210	70%	446	102%	419	91%	407	93%	325	80%
キャベツ	473	97%	492	107%	572	106%	254	79%	541	104%	515	96%	501	93%	443	92%
ほうれんそう	30	79%	42	121%	47	113%	24	92%	39	97%	43	90%	39	78%	45	84%
青ねぎ	28	81%	28	78%	38	83%	20	74%	34	85%	33	78%	33	80%	30	77%
白ねぎ	77	101%	84	98%	100	98%	43	93%	101	131%	88	113%	79	119%	63	118%
レタス	157	90%	146	86%	199	89%	93	83%	148	89%	145	90%	135	77%	136	87%
きゅうり	144	95%	148	106%	154	97%	107	81%	153	114%	142	84%	132	81%	122	76%
なす	37	99%	38	117%	37	103%	32	88%	42	128%	49	126%	47	113%	40	92%
トマト(ミニトマトを除く)	86	96%	87	94%	80	98%	59	75%	108	115%	91	83%	103	107%	79	82%
ピーマン	36	85%	50	146%	41	100%	23	76%	53	136%	45	108%	33	85%	39	98%
ばれいしょ	198	83%	153	65%	181	89%	134	96%	156	67%	252	93%	211	82%	194	76%
さといも	16	71%	23	83%	40	93%	9	85%	22	117%	17	84%	20	98%	12	82%
たまねぎ	412	97%	394	95%	363	95%	195	81%	337	88%	383	79%	410	84%	316	79%

資料:「広島市中央卸売市場日報」

注:平年比70%以下の数値に青色、及び130%以上の数値に赤色を付す。

〈お問合せ先〉園芸課／^{かん} 神田:TEL.082-846-4708

(参考)広島市中央卸売市場における品目別の卸売価格の推移

単位: 円/kg

品 目	12月上旬		12月中旬		12月下旬		1月上旬		1月中旬		1月下旬		2月上旬		2月中旬	
	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比	卸売価格	平年比
だいこん	54	76%	62	87%	72	86%	69	73%	56	73%	62	101%	73	97%	96	128%
にんじん	96	79%	84	67%	99	66%	83	60%	80	57%	76	63%	78	56%	92	63%
はくさい	46	66%	43	62%	48	63%	52	60%	47	55%	48	77%	51	68%	73	102%
キャベツ	64	71%	58	63%	71	65%	77	61%	80	80%	86	90%	95	85%	106	97%
ほうれんそう	548	99%	497	84%	491	76%	511	71%	575	92%	590	102%	552	100%	563	117%
青ねぎ	629	106%	629	102%	707	101%	719	93%	675	95%	644	104%	654	103%	649	103%
白ねぎ	350	95%	341	92%	429	106%	459	95%	313	79%	310	99%	323	90%	350	93%
レタス	112	67%	153	88%	190	91%	190	82%	179	96%	206	110%	214	114%	221	125%
きゅうり	269	74%	271	61%	355	67%	270	69%	303	78%	420	98%	437	110%	386	121%
なす	434	102%	424	89%	413	88%	376	94%	390	89%	417	90%	407	91%	414	96%
トマト(ミニトマトを除く)	336	93%	276	83%	349	104%	317	103%	266	89%	311	108%	332	99%	361	103%
ピーマン	356	88%	361	77%	381	72%	410	80%	482	78%	621	90%	776	107%	825	116%
ばれいしょ	227	172%	223	178%	218	168%	205	162%	251	172%	237	158%	246	165%	260	180%
さといも	246	107%	246	102%	302	104%	263	94%	175	67%	227	94%	233	94%	253	95%
たまねぎ	192	233%	187	213%	192	213%	151	165%	198	209%	205	212%	204	217%	220	215%

資料:「広島市中央卸売市場日報」

注: 平年比70%以下の数値に青色、及び130%以上の数値に赤色を付す。

月別の天候 【令和4年2月25日】 気象庁発表「向こう3か月の見通し」

3月

- ・北日本日本海側では、寒気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が少ないでしょう。
- ・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、寒気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ないでしょう。
- ・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

4月

- ・北・東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・北・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

5月

- ・北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

出典:気象庁ホームページ

〈お問合せ先〉園芸課／^{かん だ}神田:TEL.082-846-4708

TOPICS

トピックス

環境制御システム普及プロジェクト
～「光合成促進機」～

環境制御技術が国内外で普及する中で、飛躍的な技術革新が進んでいます。しかし、県内では施設園芸全体面積のおよそ1%しか高度環境制御技術の導入が進んでおらず、労働生産性の高いICT技術の導入は、生産基盤の確立を図るうえで喫緊の課題となっています。

全農ひろしまでは、環境制御機器として、「光合成促進機(炭酸ガス発生機)」の導入を推奨しています。同製品は他社と比較して、初期費用が少なく、設定も簡単に行うことができます。

【光合成促進機(炭酸ガス発生機)】

農作物は成長するために光合成をおこないます。ハウス栽培は露地栽培と比べて外気を取り込みにくく、ハウス内のCO₂濃度が低下し農産物が飢餓状態に陥り生育が悪くなります。「光合成促進機(炭酸ガス発生機)」はハウス内の不足した炭酸ガスを補給することで光合成を促進させ、作物の成長を促します。

【農産物へのメリット】

○収穫量が増える

⇒【いちご】年に4～5回の収穫が6～7回の収穫に。

○収穫物が大きくなる

⇒【いちご】Sサイズのイチゴが減少し、M・L・2Lサイズが増加傾向に。

○糖度が増す

⇒【いちご】糖度が11から12に。

【生産者の声】

○いちご生産者(三次市、作付品目:いちご11a)

「果実の重量や品質の向上を実感しています。また、病気にもなりにくいと感じています。」

○トマト生産者(安佐北区、作付品目:トマト450a)

「通常は反収10～20トンのハウストマト栽培ですが、CO₂濃度も含めたハウス内環境の集中管理により反収30トンになりました。」

▲光合成促進機



▲設置写真(加温機隣接設置)



▲設置写真(天井吊設置)

〈お問い合せ〉燃料課／^{おか ざき}岡崎:TEL.082-846-4709

営農支援情報

スマート農業の取り組み紹介

全農ひろしまでは、担い手経営体の「手取り最大化」につながる取り組みを、「スマート農業の実証」を切り口に進めています。広島県は、中山間地域など条件不利地が多く、スマート農業技術が活用しにくい地域がありますが、機械作業確立による省力栽培技術や、圃場情報の一元化による作業効率向上等の実証を通じ、担い手経営体の収益向上や経営拡大に寄与できる仕組みを構築中です。

【全農におけるスマート農業の取り組み全体像】

クラウド型営農管理システム「Z-GIS」を核とした、事業部門（米麦・園芸・肥料農薬・農機・園芸・施設）や他企業や外部アプリケーションとの連携を進めるなど機能を充実させながら、生産現場への普及を目指しています。

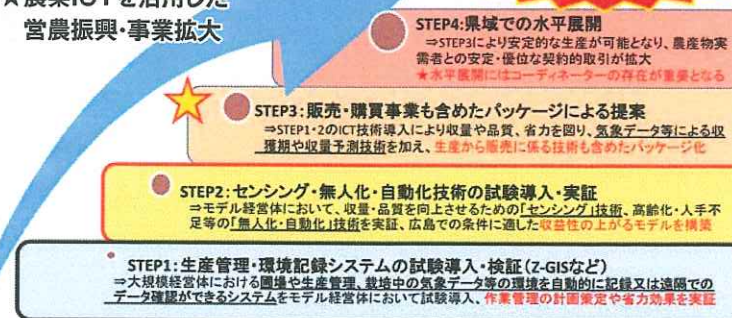


全農ひろしまの目指す方向

農業者の所得増大・農業生産の拡大を目標に、農業者への確かなICT技術を提案できる「農業ICTコーディネーター」の育成を目指しています。

新たな技術であるため、ステップ毎に実証を積み重ね、水平展開を図ります。

★農業ICTを活用した営農振興・事業拡大



農業者の所得増大
農業生産の拡大

【スマート農業実証内容】

●営農管理システム「Z-GIS」の普及・推進

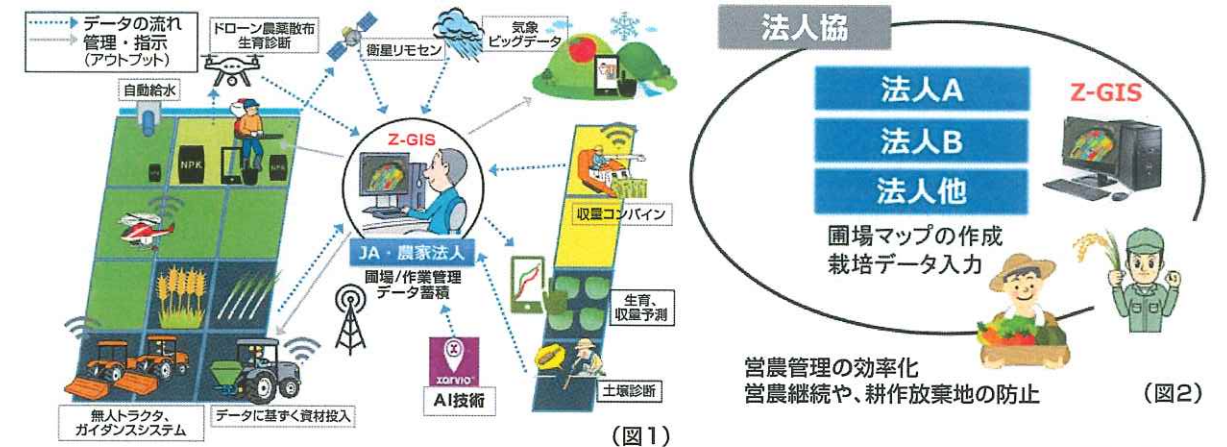
数多くの圃場を作付・管理する担い手経営体向けに、クラウドを活用して営農情報を管理できるシステムです。

このシステムを利用することにより、効率的な栽培管理、人口衛星リモートセンシングと連携、複数の経営体と営農情報の共有等が可能になり、圃場管理の効率化につながります。(図1)

集落法人連絡協議会でマップ作成し、数多い圃場を管理されることにも利用されています。(図2)

現在、県内9JA、50経営体、登録圃場面積1,100haで活用中です。

利用料も安価(登録100圃場ごとに月額220円税込)で、お試し版(31日間無料)もありますので、興味がある方は、お気軽に最寄りのJAへお問合せください。



●水稲分野の主な取り組み (モニタリング・センシング)

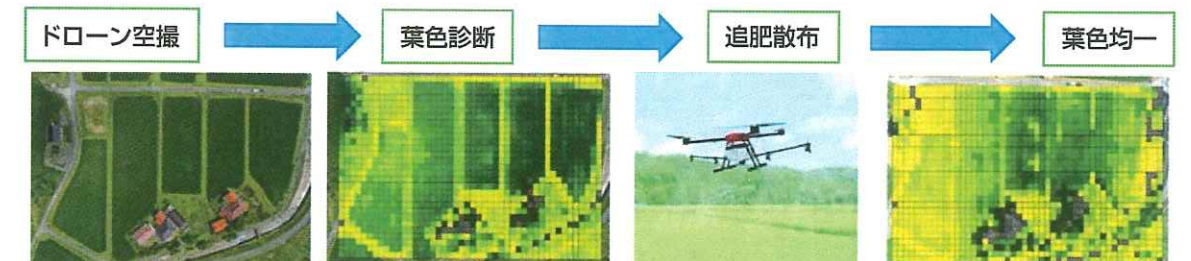
○モニタリング

圃場条件(水位・水温)をセンサーで測定し、リアルタイムで把握することにより、適切な栽培管理につなげる環境モニタリングや、センシングを活用した収量増につながる取り組みを実証しています。

ランニングコスト(クラウド利用料)もかかることから、普及状況は停滞していますが(県内7JA45経営体)で実証しています。設置経営体から水管理を適正に行うことにより収量が伸びたと言われています。

○センシング

ドローン空撮画像により、葉色形成期の生育ムラを確認し、ポイント追肥をドローンで行う取り組みもすすめています。



スマホ画面(水位・水温)で確認できます

〈お問合せ先〉 営農支援課 / 平岡: TEL.082-846-4706

肥料・農薬情報

① 水稻育苗の病害虫防除について

今年も水稻の育苗時期が近づいてまいりました。苗づくり(育苗)は、その後の水稻の生育に大変重要です。健全な苗づくりのため、種子消毒剤などの薬剤を有効にご活用いただくための正しい使用方法についてご紹介します。

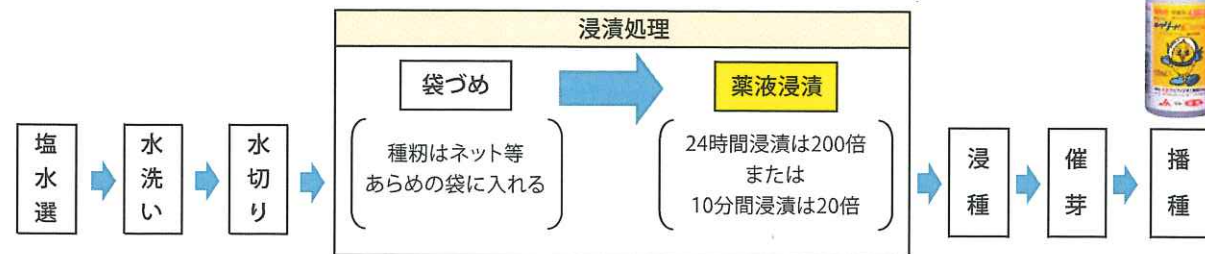
◎水稻種子消毒とは

水稻の種子伝染性病害には、ばか苗病、苗立枯細菌病、いもち病、もみ枯細菌病など注意すべき病害が沢山あります。主な発病の要因は前年度の罹病種子によるものが多く、これらを適切に防除するためには、十分な種子の消毒が必要です。

🍷 テクリードCフロアブル

2つの有効成分(イプロナゾールと水酸化第二銅)の混合剤で、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病に加え、細菌性病害の、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病にも効果があり、県内幅広い地域で使用されている総合種子消毒剤です。

●使用方法(浸漬処理の場合)



◎床土消毒

苗立枯病などの土壌伝染性病害は、もともと土壌中で腐生的に生存しているカビが原因で発生する病気です。JAで取り扱いをしている育苗培土は、熱消毒などにより殺菌処理を行っていますが、発生すると一気に拡大することや、発生すると、苗の廃棄などの対象となるため、発生させない事が最も重要な対策となりますので、購入培土であっても、床土消毒を必ず行ってください。

🍷 ナエファイン粉剤・フロアブル

1つの有効成分で3種(ピシウム菌、フザリウム菌、リゾプス菌)に有効で、苗立枯病に対して高い効果を発揮します。また、育苗苗期の根の生育促進や移植後の活着促進効果も期待出来ます。

●使用方法



② 水稻育苗の基本について

水稻栽培には「苗半作」という言葉があるように、育苗は大変重要であり、苗質は生育初期の分けつ時に極めて大きな影響を及ぼします。そこで今回は、苗の生長と苗質の基本、資材について紹介します。

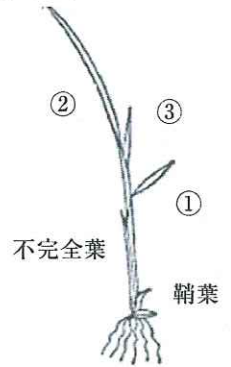
◎稚苗、中苗、成苗

種類	育苗方法		苗 質			
	播種量 (g/箱)	育苗日数 (日)	草丈 (cm)	葉 齢 (葉)	乾物重 (mg/本)	乾物重/草丈 (mg/cm)
成苗	40~60	35~45	15~18	4~6	60~80	3.5~5.5
中苗	80~120	30~35	10~15	3~4	20~30	1.5~3.0
稚苗	150~200	20~25	10~13	2~3	10~14	0.8~1.4

※葉齢は、葉身の無い不完全葉を含めない数え方

※播種量が異なれば、同じ葉齢でも形質は異なるものであるため、留意する。

※広島県稚苗移植栽培では、乾初播種量130~150g/箱を2.0~2.5葉期で移植する指針。



◎生理的な特徴

・従属栄養期

1葉齢頃までは、胚乳養分を葉や根に転換し、そのためのエネルギーにも胚乳養分を消費するので、乾物重は減りつづける。

・離乳期:

従属栄養と独立栄養の転換点の時期。

・独立栄養期:

従属栄養期以後は、光合成の開始と鞘葉節の根が出るため、床土からの養分吸収が増え、体重が増加し始める。

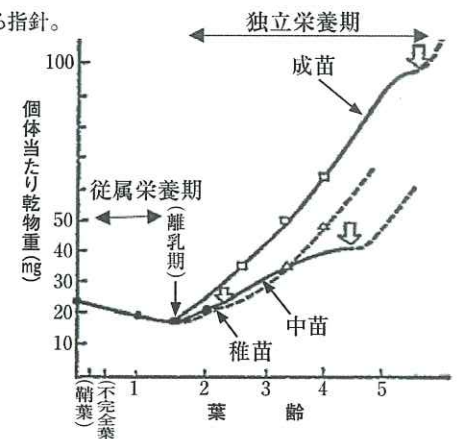


図1. 稚苗、中苗(4.5葉)、成苗(5.5葉)の乾物重変化
※点線は本田に活着以降の変化 ※白矢印は移植時

たとえば、200gまき(乾もみ)の稚苗では第2葉が展開すると過繁茂となるので、光合成は停滞し生体重の増加も止まります。過繁茂状態に達すると、生産(光合成)と消費(呼吸)が同じになり新しい葉や根をつくるのが困難になります(生長停滞)。そこで、苗の老化が始まる“生長停滞期直前”に移植し、生長を継続させます。生長停滞期を過ぎ、生長停止期に入ってからからの移植は、老化による活着力低下につながりますので、2.2葉期頃の稚苗を移植する方法が、活着やその後の生育がしやすい苗ということになります。

◎老化苗となる前に...

苗の活力を初期生育の促進に繋げるためには、育苗時の生育停滞が起こる以前に本田へ移植することが重要です。田植時期がやむをえず遅れる場合や、育苗時の苗の生育停滞を軽減するためには、育苗中～後期に追肥を行ない苗の窒素濃度を高く保つことも有効な手段です。病害の発生に注意し、適宜硫酸や液肥で追肥(N成分で0.5~1.0g/1箱あたり)を施しましょう。



資材	成分(N-P-K)%	施用量(/1箱)	希釈倍率
くみあい液肥2号	10-4-8	5~10 g	約100倍で希釈液500~1000ml

※参考文献:星川清親,農業技術大系作物編,1982

〈お問合せ先〉肥料農薬課 / 豊田: TEL.082-846-4705

農業機械情報

① 共同購入トラクタ(中型・33馬力)の購入生産者インタビュー!! ~第4弾~

令和2年12月から販売を開始した共同購入トラクタ(中型)。

購入いただいた生産者を訪問し、この取り組みを改めて説明すると同時に、使い勝手などをお聞きする取り組みをすすめています。

今回は、株式会社全農アグリサポート広島を通じて購入された、JA尾道市管内の淀川さんをご紹介します。



■共同購入トラクタを知ったきっかけ、購入動機

長年使用したトラクタを更新しようと思った時期に、株式会社全農アグリサポート広島の三木センター長・矢野担当より紹介を受けて、低コストなので購入を決めた。

■実際に使用された感想

以前のトラクタに比べ、秋起こし(秋耕)で深く耕せている。以前もキャビン付きを使用していたので、今回もキャビン付きにして負担が少なく作業できるのが良い。

■共同購入トラクタの主な使用目的、使用頻度

水稻において秋起こし(秋耕)から荒かきまで行う。畑も一部で使用するが、水稻での使用がメインになる。

■その他(ご意見・要望)

孫が農業機械の作業を含めた農業に興味を持っているので、次世代に農業を引き継いでいきたい。



左から株式会社全農アグリサポート広島の矢野担当、購入いただいた淀川さんご夫婦、三木センター長



共同購入トラクタ(中型)の受付は令和5年3月までとなります。

ご興味ある方は、最寄りのJA農機センター・株式会社全農アグリサポート広島までお問合せください。

※ご注文をいただいてから納品まで3ヶ月かかりますので、お早めにお申し込みください。

●JAグループ共同購入トラクタとは●

共同購入トラクタの取り組みは、生産資材コスト低減に向けたJAグループ自己改革の一環です。全国1万人以上の生産者の声を反映し、機能を選りすぐり、全国でまとめて注文することでメーカーの製造、流通を効率化し、製造コストを削減しています。

JA・JA全農ひろしま

シンプル & 低価格 低コスト農業応援機

LINE UP

1. 生産現場の声を反映した 共同購入トラクター(中型)



Kubota

【クボタ】SL33L

大容量48L燃料タンク

概ね1日無給油での作業が可能

メーカー希望小売価格

313.5万円~474.65万円

2. シンプル & 低価格仕様機

ISEKI

【イセキ】NTA335L



メーカー希望小売価格

346.5万円~496.15万円

3. 軽量コンパクトな車体 高出力エンジンを搭載

YANMAR

【ヤンマー】YT233A



メーカー希望小売価格

343.75万円~407.55万円

※作業機は別売りになります。

JAグループからのお願い
【お問い合わせは最寄りのJAまで】ご注文いただいて
から納品まで

3ヶ月かかります。

令和5年3月までに
ご注文をお願いします。

〈お問合せ先〉農業機械課／国弘：TEL.0824-62-3103